学校番号	３１７

平成３１年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「数学Ⅰ　Advanced」　（東京書籍）						
副教材等	ＰＲＩＭＥ（東京書籍）、ニューアクションβ（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、教科書の内容を中心的に学習していきます。日々の学習の仕方として、毎時間学習した内容（例題や問い）を、もう一度解くようにしましょう。また、同じ内容の問題が、副教材のＰＲＩＭＥや参考書のニューアクションβにもあります。教科書の例題や練習問題を解くことができるようになったら、こちらの問題も取り組んでみてください。

問題を解き終わった後には、答え合わせをしましょう。このとき、答えが正しいのか誤りなのかだけを見て終わるのではなく、解説をよく読んで、解き方や途中式にも目を通してください。そして、自分の力だけで解けるようになるまで、何度も取り組むようにしましょう。

問題集や参考書の解答は提出用のノートに、途中式や求め方も記入し、担当の先生の指示に従って提出してください。

２　学習の到達目標

・数と式、図形と計量、二次関数およびデータの分析についての基礎的な知識や技能を習得する。
・様々な事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにする。
・数学を問題の解決に活用する態度を身に付ける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析の考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的･発展的に考えたりすることなどを通して，数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析における基本的な概念，原理・法則などを理解し，知識を身に付けている。
評価方法	・授業の取り組み ・提出物	・授業の取り組み ・定期考査	・定期考査 ・提出物	・定期考査 ・提出物

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	数と式	・式の計算 ・実数 ・1次不等式			○	○	c:簡単な無理数の計算や一次不等式を解くことができる。 d:乗法公式や因数分解の公式の意味，不等式の性質を理解している。	・授業の取り組み ・提出物 ・定期考査
	集合と論証	・集合 ・命題と論証		○		○	b:事象を命題として表現し，考察することができる。 d:命題の必要条件・十分条件，逆・裏・対偶などを集合と関連付けて理解している。	
二学期	2次関数	・関数とグラフ ・2次方程式･2次不等式	○	○			a:二次関数のグラフとｘ軸の位置関係を基に，二次方程式や二次不等式の解について考察しようとしている。 b:二次関数を通し，関数的な見方や考え方を身に付けている。	・授業の取り組み ・提出物 ・定期考査
	図形と計量	・鋭角の三角比 ・三角比の拡張 ・三角形への応用			○	○	c:三角比や正弦定理・余弦定理を用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。 d:図形の計量の基本的な性質を理解し，知識を身に付けている。	
三学期	データの分析	・データの整理と分析 ・データの相関	○			○	a:データの散らばりや相関に関心を持つとともに，統計的な考え方のよさを認識し，それらを事象の考察に活用しようとしている。 d:データの分析における基本的な概念，原理・法則などを理解している。	・授業の取り組み ・提出物 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方や考え方
　　c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。